

# 地域公共交通サービス充実による高齢者・子育て世代等移動支援実証事業

応募様式A

共和町地域公共交通活性化協議会共創プラットフォーム

## 事業の基礎情報

実施主体	共和町
事業実施地域	北海道共和町及び岩内町の一部エリア
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ こども・子育て ・ 教育・スポーツ・文化 ・ 商業・農業・ 地域・移住
共創パートナー	共和町・みらいケアサポート合同会社・A I デマンドシステム事業者・子育て支援センター・医療機関（町立診療所 他）
運行形態	①デマンド交通（乗合ワゴン）実証事業として運行する交通モード（A I デマンド交通） ②道路運送法の許可区分・・・78条
運行主体	みらいケアサポート合同会社

## 現状・課題

### （地域交通の現状・課題に関する分析）

集落が点在していることから住民の居住区域が広範である本町は、主要幹線に路線バスが運行しているものの交通空白地域が生じている現状にある。少子高齢化、人口減少による個人商店の廃業などから商業施設や医療機関などの都市機能は市街地区や隣町に存在しており、運転免許を持たない住民や免許返納高齢者など移動手段を持たない住民に提供すべき持続可能な公共交通の維持が困難な状況である。

こういった状況から、町では75歳以上の高齢者に対し、町独自のバス・タクシー利用助成券を交付し高齢者の移動支援を行っているが、子育て世代など幅広い世代の移動支援も必要な状況である。この課題解決のため町による予約運行型バスの実証運行を電話による事前予約受付制で令和5年度に2ヵ月間実証を行ったが、実利用者12名、特に幌似地区では0名という結果となり、本格運行を見据えた運行区域の再設定および運行制度の再設計の課題が浮き彫りとなった。一方で利用者アンケートからは予約型運行バスのニーズは強く、バス・タクシー助成券交付よりも良いという意見が100%と、移動手段として大変重要視されているものとする。便数の増加は勿論、行き先（目的地）の追加が改善点として多く挙げられていることから、自由な時間に自由に移動ができることが求められている。

地域公共交通計画への位置づけ  
（位置づけ予定を含む）

有

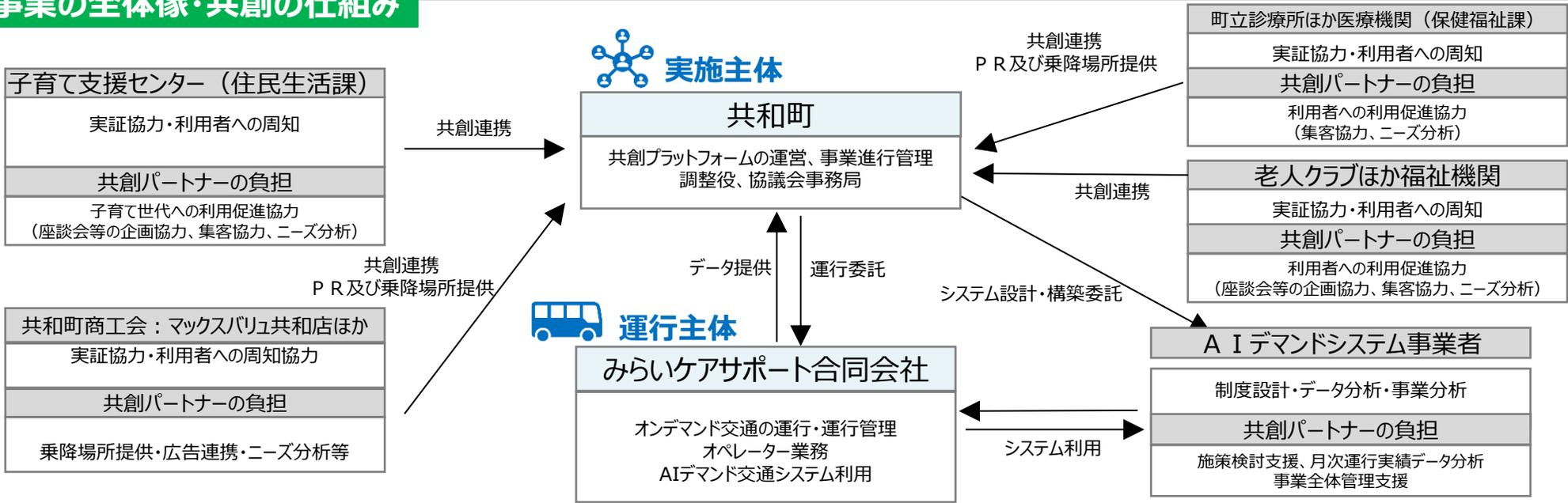
運輸局・運輸支局への事前相談

北海道運輸局交通企画課

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

## 事業の全体像・共創の仕組み



## 取組の概要

### （事業の概要）

・R 5年度に実施した実証運行では、運行便数や乗降場所、運行時間帯に対する課題が意見交換会の結果から挙げられており、高齢者のほか、子育て世代の移動課題やニーズ（時間帯や目的地）をワークショップやアンケートを通じて明確化し、住民主導によって安心して暮らし続けられる街づくりを目指した施策を展開し素地をつくりあげる。運行にはAIオンデマンド交通システムを導入し、即時予約・乗降場所の拡充により課題解決を行うとともに、予約受付時間の拡充など町民の利便性向上および事業の効率化、移動データの利活用を進める。なお、実証運行期間中もワークショップを行いながら住民主導の使われる移動手段を構築する。

### （地域の関係者との連携・協働）

- ・みらいケアサポート(合)・・・昨年度実証は1台での運行であったが、2台運行としし、運行エリアの拡充ニーズに十分な供給量を確保する。
- ・共和町商工会、医療機関・・・高齢者及び子育て世代が利用できるよう乗降場所を提供するほか、利用促進のためP R活動に協力する。

### （地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

・運行エリア内はマイカー利用が殆ど。しかし、免許返納等で車を運転できない方は、「バス停が自宅より遠方」「かかりつけ医療機関がバス停の近くではない」というケースが大半で利用想起されない現状。そこでバス利用説明に加え、バス停までの移動手段としても啓蒙し、路線バスとの接続によるバス利用促進・公共交通の役割分担を図り、相乗的に移動課題解決を目指す。

## 事業実施手順・スケジュール

項目	令和6年度										主体	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1. 実証事業の実施			システム構築 運行体系検討	実証運行								共和町/運行事業者/システム事業者
			共創企画の計画・準備	共創企画の実施 (説明会や連携施策等) ★ワークショップ								共和町/システム事業者/ 子育て支援センター/医療機関/老人クラブ
2. データ収集(運行データ・アンケート調査等)									データ収集・アンケート調査		共和町/システム事業者/ 子育て支援センター/医療機関/老人クラブ	
3. データ分析									データ分析		共和町/運行事業者/システム事業者	
4. 事業報告									実績報告		共和町	

### 施策.1

AIオンデマンド交通システム導入による運行体系見直し



### 施策.2

住民ワークショップによる活用方法検討・利用促進



### 施策.3

ガイドブック作成や説明会を通じたバス利用促進連携の検討



### 施策.4

子育て支援・お買い物支援等として送迎活用(施設連携)



## 取組の詳細

### (地域交通にもたらされると想定される効果)

AIデマンド交通システム導入のほか、昨年度の実証から運行車両を1台増車しユーザー利便性向上・業務効率化と、運行時間・役割を路線バスとの棲み分けを実現し、該当エリアの公共交通分担率を向上させる。また、共創連携先でのAIデマンド交通システムの紹介、運行車両内で朝晩のバス利用の訴求等、地域交通としてつながりのある住民周知を実施し、運行事業者との協業を実現しながら、地域の交通利便性を実現していく。

### (地域全体に及ぶと想定される効果)

バス利用者の新規顧客開拓、商業施設の利用客増・売上増、子育て世帯・高齢者の地域コミュニティの創出。これらの実現による地域活性化。安心・安全に長く住み続けられるまちづくりへの効果。まちの魅力向上、移住促進、移動データを活用した交通計画・まちづくり計画への反映

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

<input type="radio"/>	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	<input type="radio"/>	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
<input type="radio"/>	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	<input type="radio"/>	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

### (補助事業実施後の予定)

運行制度の改善および効率化を図るため、今年度AIデマンド交通システムを導入し、運行車両を2台に増台、また、実証期間を冬季間を含め4カ月（実運行日数81日）とするなど運行体制を再構築。

また、利用促進においても地域の商業団体・子育て機関・医療機関と連携して子育て世代や高齢者（交通弱者）が地域で活動しやすい環境を構築することで、地域の暮らしの足として持続的にどう活用ができるかの検証を重ねていく。

次年度以降の本格運行に向け1日当たりの利用者目標数を10人（期間内延利用者数810人、収支率5.0%以上）に設定し、現状の課題解決に努める。

・利用者数：対象区域の人口を考慮し1日当たり10人を想定、期間内延利用人数810人（実運行日数81日）

・運賃収入：308千円（収支率5.2%）・・・町外乗降場所利用356人（運賃500円/回）、町内乗降場所利用534人（運賃300円/回）

このほか、基幹産業である農業において今年度から外国人労働者を本格的に活用していることから、運転免許を持たない外国人労働者の移動支援や部活動の地域移行を見据え、利用促進及びニーズに沿った運行体制について検討を進める。

資金面	本施策は、すべて共和町の支出により展開予定
人材面（運転手の確保）	介護タクシー事業を展開する交通事業者のみらいケアサポート（合）において運転手を確保し、乗降支援などで当該事業者のノウハウを活用